

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語ⅡA(0202)	
科目基礎情報							
科目番号		2E01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位A: 1		
開設学科		産業システム工学科電気情報工学コース		対象学年	2		
開設期		夏学期(2nd-Q)		週時間数	2nd-Q:2		
教科書/教材		①『古典を読んでみましょう』（ちくまプリマー文庫）②『日本古典読本』（筑摩書房）③『古典探究漢文編』（大修館）④『新訂 国語図説 六訂版』（京都書房）⑤『常用漢字の標準演習 改訂版』（東京書籍）⑥『現代の国語』（東京書籍）⑦『改訂版 ほんものの力がつく 現代語練習帳 こののは』（いいずな書店）					
担当教員		矢吹 文乃,齋 麻子,海野 かおり					
到達目標							
日本の古典文学について、古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞を自主的にできる。漢文の初歩的な読解ができる。現代文の理解ができる。漢字テスト等を通して、語彙力を高める。言葉の大切さを理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞を自主的にできる。		古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞ができる。		古文の基礎知識と文学史的背景をふまえた作品鑑賞ができない。	
評価項目2		漢文の初歩的な読解が主体的にできる。		漢文の初歩的な読解ができる。		漢文の初歩的な読解ができない。	
評価項目3		現代文の理解が主体的にできる。		現代文の理解ができる。		現代文の理解ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1◎ ディプロマポリシー DP6 ○ 地域志向 ○							
教育方法等							
概要		【開講学期】夏学期週2時間 基礎的な教養が得られるような作品を日本文学のさまざまなジャンルから選び、自国の言葉や文化を学習する。また、漢文に関する基礎的な知識と理解を身につける。併せて現代文の読解力を養う。					
授業の進め方・方法		教科書を中心に古典文学を鑑賞する。古文の読解を行うと共に、歴史的背景を把握し、作品への理解を深める。漢文についても、読み方や解釈の仕方を習得する。					
注意点		定期的に漢字テストを行う。宿題課題等の提出は確実に提出すること。教科書・副教材の他に古語辞典と漢和辞典を持参すること（電子辞書も可）。配布プリントは紛失しないように専用のファイルを準備すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	2ndQ	9週	ガイダンス・自学自習について／漢字の作られ方 漢字の作られ方/語彙力テスト		提示された課題を把握できる。 漢字の成り立ち、日本語の成り立ちを理解できる。		
		10週	古典文学／漢字テスト1回目		古典文学作品を理解できる。 語彙力が向上できる。		
		11週	古典文学／中古の文学		古典文学作品の世界観が理解できる。 中古の文学作品を理解できる。		
		12週	古典文学／漢字テスト2回目		古典文学作品を理解できる。 語彙力が向上できる。		
		13週	古典文学／漢文		古典文学作品の世界観が理解できる。 漢文の基礎的なルールが把握できる。		
		14週	漢文		漢文の基礎的なルールが把握できる。		
		15週	漢文／漢字テスト3回目		漢文作品が理解できる。 語彙力が向上できる。		
		16週	到達度試験 (答案返却とまとめ)		古文・漢文の知識が理解できる。 (古文・漢文の知識が理解できていることを確認できる。)		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。		3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。		3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		3	

				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
評価割合						
	試験	漢字テスト	課題提出	合計		
総合評価割合	60	20	20	100		
基礎的能力	60	20	20	100		
専門的能力	0	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0	0		